

セクシュアリティ再認装置としてのアダルトビデオ

奥田 さやか

0. セクシュアリティ再認装置としてのアダルトビデオ

20世紀においては、性的であることと生きることが同一の意味を為しており、そして性に関して語ることは、もはやタブーではなくなってきた。その意味で性の解放が進んだと言えるであろう。セクシュアリティは、重要なところに位置づけられる。セクシュアリティの近代を探るためには、ポルノグラフィ⁽¹⁾を題材とすることは不可欠であると言える。なぜなら、特に、男性のセクシュアリティにポルノグラフィが多大な影響を与えているからだ。男性の性欲を刺激し、勃起させ、オナニーへとかきたてる商品化された性の世界、すなわち、ポルノグラフィという「性欲の巨大市場」として、アダルトビデオが存在している。他のポルノグラフィのメディア（小説、マンガ、グラビア）と比べて、アダルトビデオは近年めざましい成長を遂げている。そして、現在のような巨大市場へと発展していったのである。ポルノグラフィのなかでもアダルトビデオを中心に上げたい。アダルトビデオのれきしの新しさと、映像メディアとしての特性から、他のメディアより特徴的であると思われるからである。アダルトビデオは、主として青年男性がオナニーをするための道具、あるいは性行為のマニュアルとされている。『性への自由／性からの自由』において、赤川は、以下のように述べている。

アダルトビデオにおける性的「多様性」は、受け手に対して性欲の再認を促すための選択肢を提供しているのではないだろうか。つまりAVオナニー空間⁽²⁾は受け手であるヘテロ男性に対して「おまえはどのような性行為を好むのか、どのような性欲を持った人間なのか」といった問いかけをつねに孕んでいるということだ。そして受け手は、立つ／立たないを具体的な指標として自己の性的志向のありかを否応なく再認することになる。…（中略）…アダルトビデオは自己がいかなる性的人間であるかの「問いかけ—再認」の場として、すなわちイデオロギー装置として成立しているのかもしれない。

[赤川, 1996 : 186]

つまり、アダルトビデオをみることによって、勃起するか否かがわかり、そうすることで、受け手であるヘテロ男性に、自分自身の性欲は、どのようなものであるかを知らしめるのである。もっと具体的に言うなら、自分がどの場面におい

【飲み物

?????下下下下下下下下下下MMMMMMMMMMMMMMMMMMMMDDDD

J : はhはh

下下,,... MMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMJ

F :
(6.0)

【部屋を出ていく】

JJJ

M : (1.0) 二人揃って留年なんてしないでよね、ジョーくん。

↑④

をスプーンでかきまぜる】

DD

J : は、そうかな。

↑⑥

JJJ

F : チョーきれいだよな、おまえのママって。

↑⑤

*登場人物や事物の紹介

J…息子

F…息子の友達

M…Jの母親

下…下

ド…ドア

本…本

D…飲み物

?…不明

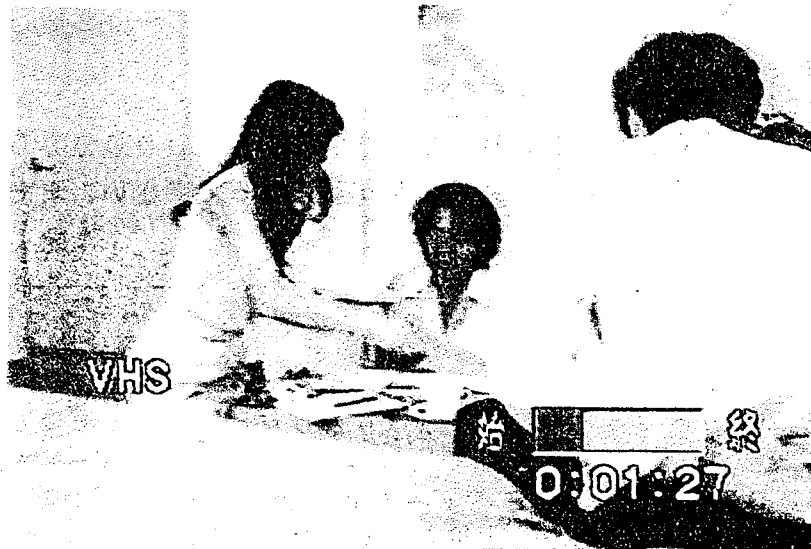


図1 MとFに飲み物を配っているところ

この断片1は、勉強をしている息子とその友達に、母親が飲み物を運んでくるという場面である。この断片1の前の場面において、JはFに対して「勉強しろよ、何のためにオレんどこ来てんだよ」という発言があることから、この家はJの家であると言える。断片1の冒頭のMのような依頼があるとき、戸を開けるといふ行為は、特別に指定しない場合やその家の住人が席を外している場合を除いて、原則的にその家の住人が行うものである。依頼に反応したのは、Jである。(↑①) また、Mが2人の留年を心配し、名指してJに対して呼びかけている。(↑④) そして、我が子がお場にいないのに、留年などということは、口にくいだらうし、また名指しもしないだらう。これらのことから、MとJは身内であることがうかがえる。そして、図1でも見てとれるように、Mは飲み物を配るときに、Fの方から先に配った。人はものを配るとき、身内をあとまわしにして、客人の方へ先に配るものである。そのことから考えると、Fが客人であることがうかがえる。さらに、Fの「おじゃましています」という発言は客が言うものである。また、Fの「すみません」という発言(↑④)からわかるように、MとFが身内ではないと言えるだらう。なぜなら、もしMとFが身内であるなら、他人行儀すぎるからである。最終的には、Fの「おまえのママ」(↑⑤)という発言で、MとJが母子関係にあるということが確定されている。また、勉強中に食べ物運んでくるという行為自体、母親らしさをアピールしていると言えるであらう。一方、息子らしさの表示として挙げられるのは、Jの「は、そうかな」(↑⑥)という発言である。時々、自分の身内でも誉める人がいるが、一般的には、自分の身内に対しての誉め言葉には、謙遜して答えものである。自分の母親がきれいだと誉められたときは、謙遜して答えているこの場合のJの発言は、息子らしさと呼べるのではないだらうか。

次に《テクニク2》について画像トランスクリプト(事例Ⅱ⁽⁶⁾:断片2)を見てみよう。

事例Ⅱ 断片2 (0:28:40~0:29:51)

【バットを背中に隠し、走ってくる】【Yの横で立ち止まる】
 YYY
 B: おっさんよ::オレ:
 WWW
 S:
 SSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSS,,... BBBB BBBB
 Y:

 YYY
 B: あの:お姉さまにメロメロなんだよ(2.0)手を引きな
 WWW
 S:
 BBBB BBBB BBBB BBBB BBBB BBBB BBBB BBBB BBBB BBBB BBBB BBBB
 Y: よせよ、子どもとは

【Yをバットで殴りながらも、抵抗されたりするので、

YY

B: =なんだと もうふざけんじゃねえよ んのヤロー:: んへへへ

WW

S:

【Bに殴られながらも、抵抗したりするので、砂浜に

BB

Y: やりたくない=

砂浜に転げる。海の中に入っても殴り続ける】

YY

B: んあ(.) んあ(.) = んあ(.) んあ(.) んあ(.) = あ(.) =

【泳いでいたが、2人の乱闘に気付き、浜辺に戻って

WWWWWWWWWW,.. BYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBY

S: りんたろう:::

転げる。海の中に入っても殴られている】

BB

Y: =あh

=あh =あh

YY

B: あ(.) あ(.) = あ(.)

きている】

【Bに駆け寄りYから引き

BYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBBB

S: りんたろう:::(2.0) やめなさい

BB,..

Y: =あh

【それでもYに向かおうとする】

YY

B: 離せよねえさん、汚ねえよ、

↓①

離す】 【Bを捕まえている】

BB

S:(4.0) はh(.) はh(.) はh(.) はh(.)

SBS

Y:

YYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYY?????????????????
 B : こんなおじんにやらせてんのかよ : =
 BBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBB?????????????????
 S : =何よその言い方あたしが誰とやろうとあんたに
 SB
 Y :

??????????????????????????????????????YYYYYYYYYY
 B : =そうかよ、オレには関係ねえのかよ : : =
 ??????????????????????????????????????BBBBBBBBBBB
 S : 関係ないでしょ : : = =そうよ関係ないわ、
 SBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSB?????????????
 Y :

YYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYY,,... SSSSSSS
 B : =バカヤロー
 BBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBB
 S : おじんだってその辺の犬にだってガバガバやらしてあげるわよ=
 ??
 Y :

- *登場人物
- B...Sの弟
- S...Bの姉
- Y...Sと不倫している中年男性
- BY...BとY BとYは乱闘しているので、2人を1つの光景として扱った
- SB...SとB BY同様にSとBは言い合いをしているので2人1度に目にはいるため2人で1つの光景として扱った

これは、姉と不倫している中年男性に嫉妬心を抱いた弟が、力尽くで別れさせようとする場面である。弟は、大好きな姉を盗られると思い、その中年男性に嫉妬した。家族内においても、時折、嫉妬というものは発生する。例えば、兄と妹がいたとする。兄に彼女ができたときに、兄を盗られたような気になるという話は、よく耳にする。そのように考えると、断片2での、弟の行動は嫉妬をそのまま行動に移したと言えなくもない。しかし、家族内における嫉妬ならば、あのような過激な行動に出るであろうか。やはり、弟のあの過激な行動には、家族内における嫉妬では片付けられない別の感情、つまり、姉への愛情が裏付けられるのではないかと思われる。↓①を見るとはBは、Yに執拗に執着しており、Sが押さえようとしてもYに向かっていこうとするのである。その執拗さは、通常の家

族以上の感情、つまり、姉への愛情が、Bのなかには存在していることを示している。

ここまでの検証において、以下のことが言えるのではないだろうか。アダルトビデオにおいて、近親相姦テクニックを駆使し、そこに登場する男女の関係が近親者であり、なおかつ少なくとも一方が、家族以上の特別な愛情を持っていることにより、そのアダルトビデオを近親相姦であると表示しているのである。そして、アダルトビデオで、近親相姦表示テクニックが表示される場面にも特徴がある。それは、性行為が行われる場面以外であるということである。確かに、アダルトビデオで、性行為の間に「お兄ちゃん」などと呼びかけがあれば、それは一目瞭然である。それだけでなく、性行為が行われる以外の場面、つまり、生活の内実を表している場面や、あらすじ的な場面において、近親相姦テクニックを駆使し、近親相姦ということを表示することにより、性行為の場面をも近親相姦であると表示することが可能になるし、リアリティあふれるものになるのだ。

結局、近親相姦表示テクニックを駆使して、リアルに描き出されたアダルトビデオは、言うまでもなくヘテロ男性の性欲をよりかきたてるように作られているのである。

2. アダルトビデオはある意味道徳的である。

結論からまず言ってしまうおう。アダルトビデオは道徳的である。なぜそのようなことが言えるのか。以下において検証していこう。

事例Ⅲ⁽⁹⁾の1:23:24において兄は妹に①「たまよ(妹の名前)ごめん、ごめんな」と、1:23:35においては②「オレってけだものだよな、おまえにこんなこと」と言っている。2人は、同意の上で性行為を行っている。①の発言の意味することは、兄と妹なのに、性行為に及んでしまったために、兄は妹に謝っているのである。また、②の発言は、兄なのに妹に対して勃起し、性行為に及んでしまった自分は、けだものだということを意味しているのである。①と②の発言が出たのはなぜだろうか。それは、兄と妹は性行為に及んではいけないという道徳があり、それに自分たちが反してしまったからである。アダルトビデオの中の人物に、このようなことを発言させるということは、ある意味道徳的ではないだろうか。アダルトビデオで行われている性行為は、道徳的でないものがほとんどである。それらの性行為が道徳的であるか否かは実は問題ではないのである。道徳的なことに反しているのだということや、こういうものが道徳だということを表示することこそが有意味なのだ。その点において、私は、アダルトビデオもまた通常の映像メディアと同等に道徳的であると主張したいのである。先に示した事例においても、兄と妹は性行為を行わないものという道徳を表示している点で道徳的ではないかと思うのである。

しかし、道徳に反することすら、私たちにとって理解可能なのはなぜか。先と同じ事例Ⅲの1:23:48において妹は「お兄ちゃん、私たちいいんだよ（性行為を行っても）本当の兄妹じゃないんだよ」と発言している。ここから言いたいことは次のようなことである。道徳に反して、2人は性行為を行っているが、実は、2人は本当の兄妹ではなかったという落ちを付けることによって、私たちにも理解可能なようにビデオは作られている。もっと他の事例を挙げてみよう。事例Ⅰの場合を考えてみる。事例Ⅰは母と息子の近親相姦であった。0:12:31において、息子は「ママは何で再婚しなかったの」という発言から、父がおらず、母一人子一人であることがわかる。また、事例Ⅱは、姉と弟の近親相姦であった。このなかでも、姉弟の両親はスーパーのチェーン店を経営しており、多忙であった。だから、今まで姉が弟の世話をしてきたのである。これら2つの事例からは以下のようなことが言える。つまり、2人の結びつきが強くならざるを得ないように描くことによって、近親相姦が起きても私たちが納得するかもしれないような余地を与えているのだ。このように作られることによって、アダルトビデオは道徳に反することも私たちにとって理解可能な図式として描き出すのである。そして、近親相姦ものアダルトビデオにおいては、道徳に反するということを逆にアピールすることで、道徳に反するスリルを描き出し、ヘテロ男性の性欲をかきたてるのだ。

3. おわりに

ここまでの展開をまとめておこう。第1に、ヘテロ男性の性欲をかきたてるために、近親相姦表示テクニックを駆使することにより、近親相姦ものアダルトビデオは近親相姦であることをアピールし、リアリティを持たせている。第2に、近親相姦ものアダルトビデオは、道徳的であること、道徳に反することを表示することにより、道徳に反することのスリルを描き出しヘテロ男性の性欲をかきたてるように作られている。さらに主張したいのは、近親相姦ものアダルトビデオがやはりセクシュアリティ再認装置として成り立っているということである。近親相姦ものアダルトビデオを鑑賞・視聴することによって、ヘテロ男性は、勃起するか否かがわかり、自分自身の性欲がどのようなものかを知るのだ。例えば、母とか姉というような年上の女性との性行為を好むとか、アダルトビデオのなかでも近親相姦ものはいまいち好きにはなれないというようにである。前述したとおり、性的「多様性」の一種として近親相姦ものアダルトビデオは存在している。そして、近親相姦ものアダルトビデオはセクシュアリティ再認装置として成り立っている。それは、近親相姦表示テクニックの駆使と、道徳の表示が存在するからにほかならない。

注

(1) ポルノグラフィを語る上で、ポルノグラフィの定義やポルノグラフィの「レッテル貼り」問題は、常に議論に上る。赤川は、こららの議論においての自分の立場として、以下のように述べている。

私は、ポルノグラフィの定義に関しては、「性欲を喚起する」とか「マスターベーションの道具として利用される」という側面を強調する。…(中略)…

また、ポルノグラフィの「レッテル貼り」問題に関しては、何がポルノグラフィであり、何がそうでないかを観察者が一義的に決定することはできない、という立場をとる。[赤川, 1996: 26]

私はこの論文において、赤川の主張をもとに論述していきたい。そのために、ポルノグラフィの定義やポルノグラフィの「レッテル貼り」問題においても、赤川の立場に同調したいと思う。

(2) アダルトビデオは、オナニーの道具として、あるいは模範にすべき性行為のマニュアルとして存在している。そして、一人部屋もしくは、一人しかそのいない室内において、鑑賞・視聴されるポルノグラフィとして、アダルトビデオは位置づけられる。こうしたアダルトビデオとその受容のあり方を「AVオナニー空間」と呼ぶ。[赤川, 1996: 178]

(3) 今回、分析の素材として、アダルトビデオ、Vシネマ、ロマンポルノを採用した。Vシネマやロマンポルノは、アダルトビデオと呼んでよいのかということが問題になるかもしれない。しかし、性器を露出するか否かは問わず、性描写が何カ所か含まれているという点で、共通している。したがって、分析の都合上、Vシネマやロマンポルノもアダルトビデオと呼びたい。

(4) この論文には、3つの事例を素材としている。1つ目は母と息子、2つ目は姉と弟、3つ目は兄と妹である。近親相姦もののアダルトビデオには、他に叔父と姪、父と娘などがあるが、入手の都合上、または流通している数を考えて上記の3つの事例に絞った。

(5) 3つの事例すべてに見受けられたが、紙幅の都合上、テクニックが顕著に表れている事例のみ紹介したい。

(6) 事例1は母と息子の近親相姦もののアダルトビデオである。

(7) 断片1及びこれ以下に使われるトランスクリプト記号を以下に示す。

= 言葉と言葉の間、もしくは行末と行頭に置かれた等号：途切れなく言葉がつながっていることを示す。

: : コロンの列：直前の音が延ばされていることを示す。

(数字) 丸括弧で括られた数字：その数字の秒数だけ沈黙のあることを示す。0.2秒以下の短い間合いは(.)という記号で示される。

【 】 すみつき括弧：参与者の発話以外の諸行動の一部を示す。

《 》 二重括弧：補足事項

n o d : うなずきを示す。

h h h : 呼気音を示す。

A A A 各発話の上に置かれた同一文字の列：その文字(A)で示された特定の事物もしくは、人物に視線もしくは顔が向けられていることを示す。

... ピリオドの列：動作が始まりかけていることを示す。

,,, ガンマの列：動作が終わりかけていることを示す。

。° : これで囲まれた箇所音が小さいことを示す。

☆☆ アンダーライン：当該箇所の音が大きいことを示す。

(8) 事例IIは姉と弟の近親相姦を描いたロマンポルノである。

(9) 事例IIIは兄と妹の近親相姦を描いたVシネマである。

参考文献

赤川学, 1996, 『性への自由/性からの自由』, 青弓社

参考ビデオ

「女子高生物語 淫らな果実」, 1998, 東映

「実際にあった再現ドキュメント 母と息子」, ホットピクチャーズ

「姉日記」, 1984, につかつ

エスノメソロジーとその周辺

—平成9年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集—

1998年3月3日発行

編集・発行 徳島大学総合科学部 榎田 美雄

〒770-8502

徳島県徳島市南常三島町1丁目1番地

☎ (0886) - 56 - 9308 (榎田研究室)